

クラス紹介

医学生としての歩みの一步

2年 石岡さくら
小林 倭大
西澤 拓馬

伝統ある新潟大学医学部医学科に入学してから早一年が経ちました。大きな期待と不安を抱きながら始まった新生活ですが、たくさんのことを新たな地で学び、吸収することのできた一年でした。

1年生の授業は、外国語、自然科学、人文社会科学などの教養教育に関する科目を学びこれらの授業は自然豊かな五十嵐キャンパスにおいて、他の学部の学生と一緒に行われます。そのため医学科内のコミュニティーに関わらず、さまざまな学部と関わるができます。また、医学の分野であれば、「医学序説」や「はじめての医学」、「医学入門」を通して、医学の勉強の基礎を学ぶことができます。これらの授業を通して、6年間の医学に対する勉強の仕方の基礎や、医学に対する姿勢の基本を築くことができます。夏には「早期医学体験実習」で医師という職業の理解、多職種連携、コミュニケーションを学びました。今年は大学病院以外の県内の医療機関での実習になりました。そのため県内の魅力を知りながら、地域医療を間近に見ることのできる大変貴重な機会となりました。一年生のうちから地域に寄り添った医療を目の当たりにできる実習であり、新潟大学だからこそできる実習でもあります。さらに、新しい仲間や部活動、サークルに所属することで、自らのコミュニケーション能力もより高まるだけでなく、自分の興味のあることに対してたっぷり時間を割くことのできる学年でもあります。これらの有意義な時間が学年の仲をより深めました。

2年生は6年間の中で最も大変だとも聞きます。一年生で学んだ教養や、実習で学んださまざまなことを忘れずに、医学の学びのスタートとなる基礎系科目や解剖実習を通して、たくさんのことを学んでいきたいと思います。

医学の勉強の始まり

3年 外山 重斗
桐生幸之助
川崎 寧々

ずっと長い間、待ち望んでいた新潟大学医学部医学科の学生としての生活がスタートしてから、気付けば2年目になっていました。

私たちは令和5年度春に入学した新潟大学医学部医学科2年生です。私たちの学年を一言で表すと、「全国最多の医学部定員で入学した最大規模の学年」です。人数が多いことで、さまざまな交友関係が生まれ、和気藹々とした雰囲気があります。この一年でできた交友関係を大切にし、医学部生としての6年間の生活を共に切磋琢磨して過ごしていきたいです。

医学科の2年生の生活は忙しくて充実しています。今年から講義では生化学や生理学などの基礎系科目を学び、実習では解剖実習などを行い医療人としての意識ができて始めています。初めてのことでストレスもありますが、チームでの協力や専門的な知識を身につけることがやりがいになります。医学生生活は将来を担う医療者としての基礎を築く大切な時期です。

2年生の残りの時間を悔いなく過ごして、3年生になる覚悟と準備をしていきたいです。

未来の医療を担う 新潟大学医学科3年生クラス

4年 田中 祐弥
平井 脩翔
阿部はる菜

新潟大学医学科3年生クラスは、医学への情熱を抱き、患者さんの健康を支えるプロフェッショナルを目指す多様な学生たちで構成されています。クラスのメンバーは、それぞれ異なるバックグラウンドを持ち寄り、豊かな学びの場を形成しています。

この1年間で、生化学や生理学などの基礎系科目を学び、解剖実習を通じて医療従事者としての心構えを再確認する学生が増えてきています。臨床の場で重要となる医学の基本をしっかりと理解しそれを実践に活かすことを目指して日々研鑽を重ねる学生たちに、将来的な医師として活躍を期待する人も少なくありません。また、医療のアクセスや公衆衛生に敏感な学生たちは、医療の未来をより公平で効果的に構築しようと意欲を燃やしています。

私たちのクラスは協力とチームワークを重視し、病院や医療施設での実習やプロジェクトを通じて、連携して効果的なケアを提供するスキルを磨いています。患者さんに最善のケアを届けるために、知識とコミュニケーション能力の向上に努める姿は医学生の特徴と言えるでしょう。

さらに医学研究実習を通し地域・国境を越えた貴重な経験を持ち帰ることで、これからの学生生活に対しての今までにない知見を持つことができるでしょう。つまり、私たちはまだまだ発展途上なのです！

医療のプロフェッショナルとしての素養を身につけ社会に貢献する使命感を持ち、私たちは知識・スキル・情熱を結集し、未来の医療を築くために引き続き努力していきます。

高学年への仲間入り

5年 岡田 隼汰
住安 蒼
増田 美果

期待と不安を抱えながら同級生と初めて対面した2021年度の入学式から早くも4年が経ち、ついに今年から高学年へ仲間入りすることとなりました。振り返ってみると様々な思い出が蘇るこの4年間ですが、特に昨年は激動の一年でした。

昨年を語る上で東医体を外すわけにはいきません。多くの部活で幹部を務めた私たちにとって部活の集大成でありました。実際に下級生の前に立ち部活全体をリードしつつも、主務・経理・書記等の運営を担う経験は今後社会に出る上での大きな糧になったと実感しております。幹部を務めた同級生の皆さん、本当にお疲れ様でした。

また昨年度はCBT・OSCEが行われたことも忘れてはなりません。と言いつつも、実はこの原稿を執筆しているのはCBTの1ヶ月前で、受かった前提でお話するのはなんとも心疾しいため、CBT1ヶ月前の4年生クラスの様子を鮮明にお伝えしたいと思います。有り体に申しますと、学年全体が受験モードに突入しております。大学に1日通えば「QB」「Qアシ」「清澤」と何十回も耳にすることになります。それほど皆全力で目の前の壁を乗り越えようと頑張っております。来年のポリクリを実りあるものにするためにも残り1ヶ月を突き進みたいと思います。

今年度からは大学での座学を終え、とうとう臨床現場に足を踏み入れることになります。実際の患者さんとの関わり、そして先生方のご指導ご鞭撻を通して、将来立派な医療人になるために一回り、二回りも成長したいと意気込んでおります。

同級生の皆さん、今年度も頑張っていきましょう。

ポストコロナ、変革の時代を生きる学年

6年 丸井 理矩
岩渕 夏海
直井 香澄

新潟大学医学部医学科5年生の私たちは、特別な経験と成長を遂げている学年です。私たちが入学したのは、ちょうどコロナウイルスが流行した年であり、その影響で多くの制約がありました。友人たちとの交流の機会が限られ、対面での学びが難しい時期が続きました。しかし、5年生に進級し、臨床実習が始まると、私たちの交流の機会は増加しました。5年生で行う臨床実習は、医学を学ぶ上で欠かせない重要なステップです。実習を通じて、私たちは病院での実際の医療現場に身を置くことができ、患者さんとの触れ合いを通じて多くのことを学ぶ機会を得ました。これまでの座学では得られなかった実践的な知識や技術を身につけることができ、医師としての自覚や責任感も一層深まりました。

さて、私たちの学年には、個性豊かな友人たちがいます。例えば、ある友人は非常に論理的で、常に冷静な判断を下すような性格です。一方別の友人は感情豊かで、患者さんとのコミュニケーションを大切にしています。このような多様性は、チーム医療の重要性を身をもって実感させてくれ、互いに協力し合いながら学び合うことの大切さを理解しました。実習の中で、友人たちと共に経験を共有し、励まし合いながら成長できることは、私たちの絆を一層深めました。実習中の何気ない会話や手技習得への協力は、私たちにとってかけがえのない宝物になっています。友達の存在は、困難な局面でも励みとなり、共に成長する力となります。今後、私たちがどのような医師になるのか、どのように社会に貢献できるのか、非常に楽しみです。臨床実習を通じて多くの経験を積み、互いに刺激し合いながらこれからの医療の世界で活躍できるよう一層努力していきたいと思っています。

旅立ちのとき

令和6年度卒業生 板垣 結人
平石 啓人
福田 花

長い大学生活の終わりがやってきました。この6年間、ご飯が美味しく四季折々の自然が美しい新潟の地で、私たちは医学の道を歩んできました。

新潟大学での学びはかけがえのないものであり、私たちは大いに成長することができました。この場を借りて、お世話になった先生方、先輩方、後輩方への感謝の気持ちを述べさせていただきます。

まず、先生方へ。先生方の熱意あふれるご指導のもと、確かな医学知識や技術を身につけることができました。ご多忙の中でもいつも私たちのことを気にかけくださったため、私たちは好奇心の赴くままに伸び伸びと学ぶことができました。心から感謝申し上げます。

そして、先輩方と後輩たちへ。先輩方からは、勉強面のアドバイスだけでなく、部活動や趣味の時間を通して様々なことを教えていただきました。後輩たちは、いつも場を盛り上げ、私たちのことを支えてくれました。楽しく充実した大学生活を送れたのは先輩方と後輩たちのおかげです。ありがとうございました。

さて、私たちの旅立ちがやってきました。私たちは各々の道へと進みますが、これからも日々知識や人間性を磨き、感謝と謙虚さを忘れず、社会に貢献できるよう励んでまいります。

今まで誠にありがとうございました。